

令和5年8月17日

都道府県臨床(衛生)検査技師会

会長 各位

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会  
代表理事会長 宮島 喜文



日臨技「認知症ワーキンググループ」より認知症予防啓発活動の提案について

謹啓 貴団体においては、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、当会の事業活動にご支援、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

日本の超高齢化社会の到来と認知症対策は早期の診断から適切な治療・ケアにつなげることが重要であり、それには臨床検査と我々臨床検査技師の能力がとても重要となっています。当会では認定認知症領域検査技師制度の創設をはじめとして、「社会とともに歩んでいく臨床検査技師会」との観点も含め、認知症医療の現場で活躍できる臨床検査技師の育成のために「認知症ワーキンググループ」を設置し、認知症医療への貢献のための活動を行っているところです。今回のご提案は昨年度に引き続き、厚生労働省や日本認知症官民協議会が推奨するアルツハイマー月間(9月)にちなんで、日臨技や各都道府県技師会において認知症への予防と共生について啓発活動を行うものです。具体的な活動は以下の活動についてご賛同いただき、ご協同いただけたらと存じます。よろしく願いいたします。

謹白

#### 記

1 都道府県技師会における認知症予防啓発活動の実施について

2 実施期間 令和5年9月1日から1か月間

3 実施内容 (別紙資料等参照)

- 各都道府県ホームページ等の軽微な修正 (オレンジや日臨技アイコンの挿入) 願い
- 各都道府県技師会事務所等のオレンジのライトアップ

4 その他

認知症WGが都道府県(衛生)検査技師会の活動内容をまとめ、厚生労働省へ報告致します。ぜひ活動(予定)内容を以下日臨技代表メールまでご連絡下さい。

以上

〒143-0016 東京都大田区大森北4-10-7

TEL 03-3768-4722 FAX 03-3768-6722

Mail jamt@jamt.or.jp

担当執行理事 勝山政彦 認知症WG委員長 宮原祥子  
事務局 高橋美香子

一般社団法人日本臨床衛生検査技師会(2022年)

1. 日本臨床検査技師会館

ライトアップ



入口ポスター掲示



2. 日本臨床衛生検査技師会 および都道府県ホームページ  
全てのご紹介できませんが、41 都道府県からご協力をいただきました。

・ 日本臨床検査技師会ホームページ



・ 秋田県臨床検査技師会



・ 島根県臨床検査技師会



・ 山形県臨床検査技師会



・ 群馬県臨床検査技師会



・ 愛知県臨床検査技師会



### 3. 会報 JAMT 認知症特集号の掲載

認知症特集HP用 (002).pdf - Adobe Acrobat Reader DC (64-bit)

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 書き(S) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)

ホーム ツール 認知症特集HP用 (1) ×

認知症 特集 (1)

ここからここまでの範囲を移動

9月は世界アルツハイマー月間

●アルツハイマー月間とは  
1994年9月21日、スコットランドのエジンバラで第1回国際アルツハイマー学会が開催されました。その会議の中で「世界アルツハイマー協会」(WHA)は、世界保健機関(WHO)と共同で毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定し、この日を中心に9月を「世界アルツハイマー月間」と定め認知症の啓蒙活動を実施しています。この活動はアルツハイマー病等に関する認識を高め、患者の尊厳と家族に負担と希望をもたらす事を目的としています。わが国でも、半スティーラーやリーフレットの作成、各種イベントの実施(「オレンジのライトアップ等」)を行い、認知症への理解を呼びかけています。

認知症の家と暮らし ～あれから1年～  
はしがき もか (ペンネーム)

昨年の会報JAMT「認知症特集」で、認知症の初期から介護保険を受給して各種サービスを活用しながら生活している女性の様子を書いた。今年はその後の彼女に起こった出来事とそれらに関わる医療サービスについて書きたいと思う。

※昨年の認知症特集(会報3月号 No.27 No.22) 12月号からご覧いただけます。

週1回の入浴サービスを含むデイサービスを利用していた彼女は、顔見知りのお友達と会話を楽しみ、体操をし、パズルや塗り絵をしながら毎日過ごしていた。ずつと家事をやっていたことから何かとまわりの利用者の世話を焼きたがため、デイサービスのスタッフは知恵を絞り、食事の時の食器の持ち上げや掃除機、洗濯物を畳むといった彼女の慣れ親しんだ仕事

院ではなく、ショートステイ先だと思っていた。その後判定会議を経て、急性期病棟から回復期病棟に移った。おとなしいがどんな行動をするかわからない彼女は、私の所属する認知症ケアチームの介入を受け、ナースステーション近くの4人部屋で過ごした。認知症ケアチームが行っていた院内デイサービスにも参加し、マスコットづくりなどもさせてもらい、リハビリも頑張る中、退院が近づいた。まだ1月の末、楽しいと直接帰ったとしても登壇一人でいることは難しいと思われた。ケアマネジャー、看護師、リハビリスタッフ、ソーシャルワーカー、デイサービス事業者と家族で退院に向けての多職種合同カンファレンスを行い、ショートステイを程

小ピクachuのマスコット